

## ヘルスケアFM研究部会

# ヘルスケアFMのこれから —皆さまと共有すること—

ヘルスケアFM研究部会 部会長

上坂 修 こうさか おさむ

株式会社ヘルスケアFM研究所 代表取締役  
認定ファシリティマネジャー

超高齢社会に立ち向かい、ヘルスケア FM は何をすべきか？重要な経営資源ヒト・モノ・カネ・情報の内、モノとヒトの共通認識から、病院経営に結び付くヘルスケアファシリティマネジャーの果たす役割を考察した。

東日本大震災以降、BCP（医療存続）の必要性は社会的な要請となったが、根幹となる LCM（病院ライフサイクルマネジメント）は十分に認知されていない。本年度、2016 年度末に公共施設等総合管理計画を完了し個別施設計画へ踏み出す中、多くの自治体病院で地域医療再編を支える掛替えのないハコモノの重要度が注目される。沖縄県病院事業局経営会議の病院 FM 講演でも「総合管理計画策定はゴールではなくスタートであり、病院個別計画の実施に真価が問われている」との認識が共有された。

病院経営者のプラットフォームとなる共通テーマ「医療機能評価・JCI 評価項目を FM 視点で一覧化して、経営者のシーズ・ニーズに展開」では病院ファシリティマネジャーの重要性を経営者が気づくため、FM の 3P を進化させたカスタマーファーストの 3S として、Staff → 「経営層＋職員」Service → 「コア＋ノンコア」Space → 「環境・場＋施設」と「患者・家族・地域」を加えた 7 視点から FM 業務を分析評価していく。

実力病院ベストプラクティスと対峙して大半を占める中小病院経営者に役立つ FM 支援業務のメニュー化事例も紹介した。

部会講演は看護協会・岩澤由子氏「労働と看

護の質向上のためのデータベース」からファシリティの質向上への連携を探り、医療福祉設備協会・郡明宏氏「感染管理と FM」から ICRA<sup>\*1</sup>への必要性を示唆された。「ヒト・モノの関係性」から日常維持管理に隠された経営に至る重要な FM 視点を再考し、病院ラウンドへの参加等から日常的に医療者と経営者を結びつける仲立ちとしてのファシリティマネジャー独自の役割が求められている。

外部講演は国立大学法人中堅研修で病院 BCP ファシリテーターとして熊本地震で得られた新たな視点に言及した。前震・本震・余震継続という新たな局面で、施設管理者が被災点検・復旧作業をその都度繰り返す現実が生じて、外部からの DFAT<sup>\*2</sup> 支援組織が地域に必須となっている。井水の濁り、都市ガス停止、免震病院の EXPJ（免震用エキスパンションジョイント）外れ・天井材落下、EV 縦動線確保、燃料・水・医療ガス優先供給と電源車・給水車の接続ポイント、受援ルート・トリアージルート・ヘリポートの設定等、事前に解決すべき新たな減災への課題も見つかっている。

「ヘルスケア施設の事業・財務・不動産評価」出版では、オペレーションとして FM 評価が新たに付加されるに至り、将来の保健医療を支える「病院から健院へ」のパラダイムシフトや ISO による国際認証が、今後の「外への FM」の姿を描こうとしている。

\*1 ICRA : Infection Control Risk Assessment

\*2 DFAT : Disaster Facility Assistance Team